

2014年1月期11月度 月次業績動向 (2013年10月21日～2013年11月20日)
会社名 ピープル株式会社

(http://www.people-kk.co.jp/)

代表者名 取締役兼代表執行役 桐淵千鶴子

上場取引所: 東証JASDAQ

TEL: 03-3862-2768

コード: 7865

問い合わせ先 IR担当 飛田留美子

(単位: 千円)

科目	《月次の対比》			《期初からの累計期間の対比》			《過去12ヶ月累積の対比》		
	2013年1月期 11月度	2014年1月期 11月度	前年 同月比	12/1/21～ 12/11/20	13/1/21～ 13/11/20	前年 同期間比	11/11/21～ 12/11/20	12/11/21～ 13/11/20	前年 同期間比
売上高	407,789	440,433	108.0%	2,341,471	2,695,357	115.1%	2,861,375	3,205,371	112.0%
営業利益	88,209	108,930	123.5%	115,981	117,189	101.0%	142,955	156,242	109.3%
経常利益	93,351	84,088	90.1%	122,175	143,575	117.5%	146,886	181,760	123.7%
税引前利益	93,350	84,088	90.1%	122,166	143,575	117.5%	146,881	181,760	123.7%
流動資産	2,055,123	2,069,235	100.7%	【2014年1月期通期(2013/1/21～2014/1/20) 業績予想】 (2013年12月2日発表) ・売上高 32億76百万円 (前年同期間比 14.9%増) ・営業利益 1億25百万円 (前年同期間比 19.3%減) ・経常利益 1億79百万円 (前年同期間比 11.5%増) ・当期純利益 1億4百万円 (前年同期間比 11.8%増)					
固定資産	161,680	160,142	99.0%						
流動負債	373,742	352,534	94.3%						
固定負債	50,000	50,000	100.0%						
純資産	1,793,061	1,826,843	101.9%						
総資産	2,216,803	2,229,377	100.6%						

商品別売上高

商品カテゴリー名	2013年1月期 11月度	2014年1月期 11月度	当月 構成比	12/1/21～ 12/11/20	13/1/21～ 13/11/20	当期間 構成比	11/11/21～ 12/11/20	12/11/21～ 13/11/20	当期間 構成比
乳児・知育玩具	155,056	182,689	41.5%	884,060	924,855	34.3%	1,095,819	1,133,097	35.4%
女兒玩具	93,203	107,818	24.5%	485,800	502,839	18.7%	656,996	641,269	20.0%
遊具・乗り物	96,853	61,131	13.9%	546,393	457,106	17.0%	654,639	534,645	16.7%
その他	62,677	88,794	20.1%	425,218	810,556	30.0%	453,921	896,360	27.9%
合計	407,789	440,433	100.0%	2,341,471	2,695,357	100.0%	2,861,375	3,205,371	100.0%

11月度新発売商品

当月新発売した商品はありません。

クリスマス商戦に向けた玩具市場は、次12月度の短期決戦に向けて極めて不透明な状況を迎えています。当11月度では、11月末頃から始まるクリスマスセールに備え出荷が開始されますが、潤沢な市場在庫状況から出荷スピードは鈍化している様子です。

トレンドアイテムより定番品に寄っている当社玩具部門商品は、見通ししやすい為、予め受けた年末予約注文通りに前年同月を超えて出荷され、自転車等に見られる当期特有の鈍化を補い、国内販売売上を押し上げ、海外販売を含む当11月度の総売上高は4億40百万円、前年同月比8%増となりました。

乳児・知育玩具では、安定商材の「やりたい放題BIG版」がクリスマスセールに備え前年以上に好調に出荷、「お米のシリーズ」の人気も支えています。又、「熱中知育プレミアム」等高額品が1年ぶりのTVCMで実セールアウトにつながり予約以上に動き当月売上に反映されています。

女兒玩具では、お人形年末限定品の限定感が早期購入を促している様子も見せ、前年よりも早く当社倉庫在庫は完売の運びとなりました。又、これまで独自低価格を付けていた一部の販売店では、9月を機に価格改定に踏み切りましたが、値上げした売価でも販売数が伸びている事から、当シリーズは好評価され棚スペースをより多く取る等、シリーズ人気の回復が見えています。

一方、自転車のジュニア車や幼児車市場では、クリスマスに向け大手量販店各社から例年のないプライベートブランド新製品露出で店内を占領され、競争は一層激しくなり当社の販売数にも影響を及ぼしています。

当11月度単月損益は当期第3四半期決算修正の調整が含まれており、経常利益では、営業外損益で保有為替評価が時価と連動して増減し、その調整が単月数字に反映しています。

尚、このような調整を含みながらも単月での営業利益増の主な理由は、新製品発売があった前年同月に比べ広告費が削減されているためです。損益に関しましては、当期期初からの累計期間の対比と合わせてご確認ください。